させるために、次のような指導を考えた。

① **音声のねらい**

はっきりと正しく発音・発声ができること。

② **言葉の意味理解のねらい**

言葉の辞書的意味、叙述に即した意味が把握できること。

③ **情感的表出のねらい**

情景・人物の気持ちから言葉をとらえ、感情をこめて読むことができること。

さらに、情感的表出の指導としては、意味内容・情景を把握したうえでの言葉を表現することによって、より深い意味内容・情景を把握することを目的とした「表現読み」指導を核として進める。

また、一人一人の音読の能力の向上は、画一的な一斉指導ではなじめず、個別に評価し、そのつまずきを診断することが大切である（その診断の観点は、「個人別診断票」による）。

(2) 仮説

> **音読・朗読の学習において、文章読解の指導過程のなかで、「音読学習のねらい」を明示し、それに基づいて音読・朗読させ、「個人別診断票」によって診断し、それぞれのつまずきに応じた治療をすれば、聞き手に内容がよくわかる音読ができるであろう。**

表2　音読学習のねらい

	文章読解の基本的な指導過程	言語事項の指導	音読学習のねらい		
			発音発声のねらい	言葉の意味理解のねらい	情感表出のねらい
第一次	教材文を通読し全体の概観や印象、学習の見通しをたてる。	文章のあらすじをとらえ語の抵抗を取り除き、学習計画を立てる。	一字一字正確に発音できる。 身体トレーニング・呼吸・発声・アクセント矯正	一字一字に着目し、正しく読むことができる。読み深めの抵抗となる語句の意味の解明（新出語句・文字・類義語） 辞書カード	
第二次	印象や概観を叙述の上で調べ、話し合う。	人物の心情、場面の情景、主題などを読み取るために重要な語句に気づき、その意味や働きを文脈のなかで理解する。	学習課題を解決する場面で、はっきりと正しく発音することができる。	読みとりに必要な「重要語句」に気づき、理解し、語句を通して、想像を広げることができる。 言葉の学習欄の活用	人物の気持ちや場面の情景をとらえて音読することができる。 音読学習の手引き
第三次	主題、要旨を追究整理する。	第二次でとらえた内容を感想文や朗読で深める。		学習した言葉が自分の言葉として理解することができる。 辞書カード、短文つくり	自己の音読のめあてを持ち、「表現読み」によって、情感を表出する音読ができる。 自己評価カード
第四次	学習のまとめをする。	第二次で理解した語句を文脈中での意味用法にとどめず、練習を通して、理解表現に生かすことができる。	児童による音読の自己共同評価や教師の「個人別音読診断票」によって、つまずきを知り、治療によって音読を向上することができる。 個人別音読診断票	漢字、複合語、同音異義語、同義語、類義語、反対語、多義語、慣用語などを理解することができる。語句の性質、働き、修飾・被修飾関係、呼応などを理解することができる。	児童による音読の自己共同評価や教師の「個人別音読診断票」によって、つまずきを知り、治療によって音読を向上することができる。 個人別音読診断票